
ほぼ日常から修羅界へ修羅界からネギまへ

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほぼ日常から修羅界へ修羅界からネギまへ

【Nコード】

N2226K

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

御神 龍は平凡な何処にでもいそうな学生だが実は殺し屋。でも神のせいで修羅の世界にとばされそれからさらにネギまの世界にとばされどうなることやら。※更新不定期です。オリ主最強。技や魔法多重クロスです。

プロローグ（前書き）

ネギま2作品目です。無限のフロンティアエクシードをやりつつネギまを読んでたら新たなものが書きたくなったので投稿します相変わらずの駄文ですがよろしくお願いします。主人公が一応殺し屋という設定になってますが最初はあんまり関係ないかもしれないですね。

プロローグ

プロローグ

「あれ…ここはどこだ？」

俺の名前は、御神^{みかみ} 龍確^{りゅう}か部屋で寝ていたはずだが起きて周りを見るとあたり一面花畑

「ここは、あの世じゃ」

「……………」

何やら幻聴がきこえるきつと気のせいだな

「こら、無視するでない！」

「ちっ幻聴ではなかったか」

と言いながら声がした方を向くといかにもワシ神様じゃと言い出し
そうなじじいがいた。

「幻聴じゃないわリアルじゃ！！」

「いやあだっていきなりあの世とか言われてもなあ…って言うかあ
んた誰？」

とりあえず反論しながら正体を探る

「ワシかワシは神じゃ」

あーあ予感的中というかなんとというか複雑な気分だなあ

「んで、神様なんで俺はあの世にいるんだ？」

死んだ覚えもないので聞いてみる。

「それは…」

「おう…それは…」

「それは！」

「早く言え！！！」

『スパーン』

「グハッ」

もったいぶるのでハリセンで突っ込む。

ハリセンを何処からだしたかってのは企業秘密だ。

「せっかちな奴じやのう。まあいい、お主がここにいるのは死んだからじゃ」

「何だ死んだからかあ……ってちよつとまで死んだ覚えはないぞ！！」

「そりゃそうじゃお主が寝ている間にワシが殺して連れてきたんじやから」

「はっ今何ていったこの糞じじい！？」

「ワシが殺した！」

胸を張って答えるじじい

「ふざけんな！！俺に何の恨みがある俺はおまえに何かしたのか？
なあ糞じじい！！」

俺はキレた

「まあまあ、おちつけこれにはちゃんとした理由があるんじゃない」

「人を勝手に殺しておいて何が理由があるだ！」

「お主も勝手な理由でたくさんの人をころしたではないかのう」

「うぐっ」

反論できない。

俺は普段は平凡な何処にでもいそうな学生だが実は殺し屋である。
だが殺すのは権力を盾にしたりして悪どい事をしてる人間のグズや
法で裁けない悪だ。

「何も言えんじやろう？」

「わかった。その理由とやらを聞こう」

とりあえず理由を聞くことにした。

「実はのう。ワシのミスでお主を殺してしまったんじゃ」

「おいじじい！！てめえ何がちゃんとした理由だ！！てめえのミス
じゃねえか！！」

「すまんくしゃみをしたついでに殺してしまったんじゃ」

「いやいやいや、くしゃみをしたついでにおかしいから！俺を
元の体で生き返らせろよ！！」

「それはできないんじゃ」

「はっ何で神様だろ出来るだろ？」

「お主の体はもう火葬されちゃったから無理」

「え…もう…火…葬され…ちゃっ…たの」

火葬されたと聞いた瞬間俺は真っ白になった。

「さらにお主に別の体を与えても世界がお主の死を認識しておるから無理」

更に追い打ちをかけるじじい

「あは……あはは……ははあ……」

「だが平行世界でなら生き返る事が出来るんじゃないが」

「えマジで！生き返ることが出来るなら何処でもいいよ」

俺はこの発言をしたことを後で後悔する事になる

「おうそうかそうか何処でもいいかそれならランダムジャンプ」

俺の足元に魔方陣が表れる。

「おうじじいところで何処に飛ばされるんだ」

「ランダムジャンプだから何処か分からん（ワシを糞じじいと言った罰じゃうんときつい世界に送ってやる）」

「無責任だな」

「お主が何処でもいいと言ったんじゃない。色々特典を付けてやるからもう頑張って生き残るんじゃない」ニヤ

「おい何だその顔はやっぱり」

いいおわる前に転移した。

「やれやれ、厄介者がいなくなったからのう人間観察の続きじゃ」

転移先の世界

「あのじじい覚えてろよ！！それよりここは、それにこのにおい」

あたり一面死体の山。

死体を見ると刀や槍などの切り傷などのあとがある。死体から推測するとあまり文明が進んでいないようである。

そういえば何だか視界が低いなと思い自分の体を見ると縮んでいた。

「特典ってこのことか」

いらない特典である。

「ここにいてもしょうがない何処か村か町までか食料を確保できるところを探そう」

一週間後

「はぁはぁはぁ」

もう歩けない。

この世界に来てから一週間飲まず食わずに歩いてきたもう限界だ。一向に村、町はおろか人っこ一人見つからない。食料を探しても食べそうなものは見つからない。もうダメだ俺は倒れて気を失った。

プロローグ（後書き）

次話からは修羅界の話になります。修羅界偏は短くしてさっさとネギまに入ると思いますが。感想よろしくお願いします。

それから『神の力と血を継ぐ者』は今物語の構成がうまくいかないので更新はだいたい先になりそうです。

第一話（前書き）

短いです。

第一話

第一話

「知らない天井だ」

目を覚ますと俺はベットに寝ていた。

「お、気が付いたようだね」

声がした方を向くと細身の男がいた。

外見に似合わず只者ではない事が感じとれる

「そんなに警戒しないでくれ」

「すいません」

「あやまらなくていいよ。僕はランディ・バード」

「あ、俺は…」

一瞬本名を名乗ろうか迷いながら

「俺は、リュウと言います」

下の名前だけを告げた。

「リュウ君ですかいい名前ですね。年の割りにもしっかりしてる。どうして倒れていたんですか？」

「実は一週間程飲まず食わずで彷徨ってましたので…」

「一人でですか？ご両親は？」

（うっ、まずい適当に誤魔化すか？）

どうしようか悩む

（この世界の人間じゃないから嘘八百で誤魔化そう）

「え…っ…ですね。戦に巻き込まれて……」

「戦にですか……はっ、もしかしてこの間の修羅の……すいませんでしたひどいことを聞いて」

どあやまるランディさん

一方俺は

（はっ、この間の修羅のってなんだ？まあいいこのまま誤魔化そう）

「いえ、過ぎたことですから気にしないで下さい」

「なんて出来た子だ！ヨシッこれも何かの縁だ。今日からここに住みなさい。僕が生き残るすべを教えてあげよう！」

逃がさないよと顔で語りながら話すランディそして

「よ、よろしくお願いします。（よかったこれで餓死しないですむ。それより生き残るすべってなんだ？嫌な予感がするな）」

こうして俺はランディさんに引き取られた。

引き取られてから一年後

「まだまだですね。もっと覇気を高めて!!」

「もっとですか？師匠」

ただ今修行中

あれから色々とわかった。まずこの世界は修羅界と言うらしい。そして、この修羅界にいる種族が修羅。修羅は闘うのが生きがいらしい。その修羅を治めてるのが修羅王といって修羅で一番強い者がなるらしくまさ弱肉強食。さらに修羅同士の闘いは負けたら殺されたりするらしい。

いくら殺し屋でもこれはきつい

早々、ラン：もとい師匠は機神拳の達人でかなりの実力者。

生き残るすべとは強くなって生き残ることゆえに今は機神拳をならっている。生き残るために

第一話（後書き）

修羅界は一応スパロボからとっていますがスパロボと違うところは独自設定と言うことにしてください。それでは感想よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2226k/>

ほぼ日常から修羅界へ修羅界からネギまへ

2010年10月8日12時50分発行